

萩にあしあと残そうよ

「寒波襲来さえ新たな体験。」

令和3年(2021)
2月1日発行
—第19号—
発行：大塚好一



夏みかん大丈夫？
(1月9日)

〔日々の暮らし〕

年明けの大寒波で、萩では珍しく本格的な降雪・積雪となりました。山間部は別として、市街地では積もってもすぐに溶けるのが常、小雪だった昨季は二月にたった一度しか降りませんでした。

寒い日や風の強い日が多くなると、屋外活動が億劫になります。だからといって狭い部屋にじっとしているのも続けば苦痛になります。そんな時は意を決し、ランニングに出るとスッキリすることも。

そうそう、備えておいて憂いがなかったものは電気ストーブ：エアコン暖房の補助にとっても役立っています。

〔自由気ままな歌日記〕

正月の二日

縄跳びケーナ吹き

読書をして時余る午後

(一月二日)

真冬日の観測三十年ぶり

哀れ湯の出ぬ蛇口をひねる

(一月八日)

萩の地を選びし会社南青山に

支店を持つも導きなるか

※斎藤茂吉の長男茂太氏による

「茂吉の周辺」を読み、青山脳

病院跡地の近くに岸田商会東京

支店があることを再認識。

(一月十日)

川上に逆らい波の立つ水面

松本川も橋本川にも

(一月一六日)

笹舟を浮かべてみたくなる

ほどに緩く流れる大寒の川

(二月二〇日)

〔あしあとノート〕

◆大荒れ萩の白い光景◆



萩城跡。堀の水が凍り、不思議な氷絵が出現していました。

年の初めから強い寒波に襲

われました。八日(金)夕刻

のニュースによれば、最高気

温がマイナス〇・五℃で、萩

市でおよそ三〇年ぶりの真冬

日を観測したそうです。

こうした寒さと雪の影響に

より、せつかくの三連休が始

まった九日は大変なことに。

特に道路状況が悪化し高速道

路は終日通行止め、萩市内の

道の駅は臨時休業、個人経営

の土産物屋や飲食店も軒並み

戸締めされていました。

水道の凍結、水道管の破裂

も相次ぎ、配水池の水位が低

下した一部の地域では、約一

週間の断水が発生しました。

季節ごとに色々な事態が起こ

るといふものです。

そんな日などは家で大人し

くしているべきなのですが、

危険のない行為なら好奇心を

満たしたくなる性分です。せ

めて世界遺産の雪景色くらい

は取材しておきたくて出かけ

てきました。

恵美須ヶ鼻造船所跡、萩反

射炉、萩城跡、松下村塾…さ

すがに山奥の大板山たたら場

遺跡を目指すことは控え、代

わりに波の荒々しい菊ヶ浜な

どへ足を運びました。



戸締めされた松下村塾。神社の
社務所等も閉まっていた。

松陰神社で四名ほど参拝者

を目撃した以外は、各場所を

訪れる人影はありませんでし

た。しかし、恵美須ヶ鼻と反

射炉の待機小屋にはガイドボ

ランティアの姿がありました。

こんな日だから休めば良かった

のではと思いつながら、その

使命感の強さを感じる一面で

もありました。



海を望む斜面に咲き競い、
良い香りを漂わせています。



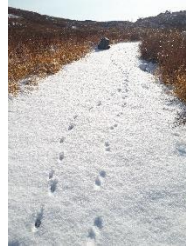
菊ヶ浜と指月山。
山、波、砂、雪の色が
重なり美しいです。

◆唐音水仙公園(益田市)◆

海岸に咲く可憐な花を見たくなり、島根県益田市の唐音水仙公園を目指しました。寒波による嵐で傷められ、花のある株は少なめながら十分に見応えがありました。ここは鎌手(かまて)ふるさとこし推進協議会、つまり地元の人々が整備をしたそうです。なんと二百万球を超えるニホンスイセンが植栽されているとのこと。一足早い春の訪れを味わうことができました。

◆雪景色の秋吉台へ◆

雪の話に戻りますが、秋吉台の景色が気になりました。道路にはまだ雪が残り、萩市の山間部はひどい状況でしたが、カルストロード（秋吉台道路）は除雪され快適に走行することができました。



遊歩道は動物の足跡だけ。

初めて目にする雪化粧の秋吉台。展望台から眺めれば満足の予定でしたが、長靴を履いた足ははずんと遊歩道に向かっけ行きました。なにせ今朝はまだ誰も踏んでいない雪の上を歩けるのですから。薄曇りがやがて青空へと変わるといふ幸運も重なり、とても贅沢な時間が流れました。



心も体も温まり、上着を脱いで記念撮影です。

〔波間のエッセイ〕

『新春のランニング』

日陰に残っていた雪も溶けてしまえば、年明けの寒波も喉元を過ぎてしまったような冬の萩です。小さな目標を立ててランニングを再開した私も、手袋をしている以外は晩秋と変わらぬ服装で外に飛び出しました。当たり前のことですが、寒中といっても毎日が寒い訳ではありません。

初めのうちは国道一九一号に沿う歩道を走ります。いつも思うのは、車道は一定の幅が確保されるのに、歩道は付け足しのように広くなったり狭くなったりすること。そして一段高く作られた歩道になると、交差点では低くなり、車が乗り入れる場所には傾斜がつき、実にデコボコであることです。些細な段差や傾斜でも足首を捻りやしないかと気を遣いますから、シルバークー（手押し車）を扱うのも一苦労だろうと思います。狭い歩道には庭木の枝が飛び出していることも。いつも

のように避けなくてはならないながら目をやると、ロウバイの花が咲いていました。毎日車で通っていたのに、いつの間にかこんなに開いたのだろうか、黄色の花に頬が緩みました。狭い歩道にはみ出ししても、花が咲いていたら許してしまふとは呑気なものです。

さて、ランニングのロングコースは、越ヶ浜駅前を出発して、松陰神社前・萩駅前・玉江駅前、そして菊ヶ浜を眺めて越ヶ浜駅前に戻ります。おそらく距離は一七km弱で、大抵一時間四〇分程で帰ってきます。萩三角州の外周なのでほとんど平坦、城下町の町並みというよりは、海や川の景色が楽しいコースです。

阿武川の流れが二つに分かれた松本川と橋本川は、河口付近ということで、潮の満ち干で水位が変わるほど緩やかな流れです。それが冬になると、北西方向からの強い季節風が吹き渡り、ちょうど河口から上流に向かって吹くことから波が遡上する、つまり風で起きた波が川上に向かって揺れ動いていくのです。ランニングをしている時は

思考もリラックスしていますから、『斎藤茂吉の「最上川逆白波のたつまで」にふぶくゆふべとなりけるかも』だ。いやいやあれは内陸だし、これを逆白波と言ったら「けしからん！」と一喝されてしまうだろう。』などと独りごちて笑っていました。

対岸の広場にサッカーをする子供たちがいたり、川面に鴨や鵜など水鳥がいたり、夏みかんがたわわに実っているのを目にするなど、走っていると季節ごとの景色をより味わえるものです。

ところで、私のようにキョロキョロ見ながら走っているのは珍しいのか、時々すれ違いうランナーたちは目つきが異なるような気がします。目が合えば挨拶もしやすいのですが、周囲を遮断しているような人にもよく合います。

私のランニングは小旅行のようなもの。何か新しいものと出会ったり、変化に気づいたりする楽しみがあるから続けられるのかもしれない。額から頬に汗が伝い、足に程よい疲労が生じる、そんな小さな旅を繰り返しています。

〔萩の五十音 その②〕

野山獄語る歴史の舞台裏



海外密航に失敗した松陰先生が一年余り投獄された野山獄は、士族を収容する上牢です。道を隔てた岩倉獄は庶民を収容した下牢でした。幕末期の波乱に富んだ萩藩において、投獄されたり処刑されたりした人々が今も語り継がれています。

恵まれた漁場の幸に舌鼓

広くて平らな大陸棚に火山や溶岩が「瀬」を作ることでブランクトンが良く育ち、それを食べるために魚が集まります。瀬つきアジ・ケンサキイカ・ウニ・あまだいなど、萩沖の漁場は海の恵みの宝庫です。